

平成 28 年 3 月 18 日

南 の 風 1 7 6

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

175号の続きです。基準規則には、オールコートプレスの3線の位置については、何も触れていません。但し、『マンツーマンディフェンスの基準規則』の2.プレスディフェンスの項目のところに、

チームがプレスディフェンスを採用した時（フルコート、3/4コート及びハーフコート）でもマッチアップの基準に合致すること。注意点：さまざまなゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスは、マッチアップエリア以外でも不正である。

プレスディフェンス採用時の基準は以下の通りである（フルコート、3/4コート及びハーフコート）：

・ボールを持っている選手をトラップすることは許されるが、ローテーション後のピックアップを確実にに行い、コミッショナーにマッチアップが明確にわかるように行うこと。

となっています。チームがプレスディフェンスを採用する時に気を付けることは、オールコートであれ、3/4コート、あるいはハーフコートであれ、マッチアップの基準に合致しているかどうかということです。

《マッチアップの基準規則・補足解説》 ◆マンツーマンディフェンスの見分け方

- ・マンツーマンの意識がある。（声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等）
- ・ボールや相手とともに動いている。
- ・相手チームのフロントコート内のマッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。（オールコート、ハーフコート等ディフェンスをし始める位置を定めない。）
- ・オンボールのマッチアップは 1.5m以内を目安とする。（マッチアップエリア以外においては、スローインも含めて、1.5m以内は当てはまらない。）

以上です。繰り返しますがオールコートプレスの場合、3線がどこまでフローディングしていいのかが明記されていません。オフェンス側プレイヤーがフロントコートのビッグコーナー当たりに下がった時は、フローディングしなければ、大きなスペースがコートの中央にできてしまいます。

但し上記したように、**マンツーマンの意識がなければいけない**ということです。

また、『**コミッショナーにマッチアップが明確にわかること**』とあります。コミッショナーも人間です。どうしても、主観が入ります。コミッショナー研修での共通理解が欠かせません。『マンツーマンの基準規則』の範囲内で、できるだけ**客観性を担保**していくことが必要になります。勝手な解釈や、ある局面だけで「ゾーンとみなす」ことは慎むべきだと思います。

オールコートマンツーマンプレスは、各チームにとって大切なタクティクスです。負けている場合にプレスディフェンスにでることは必然的なことです。その際、各コーチはマンツーマンのプレスディフェンスを選手に指導すべきです。ゾーンプレスやコンビネーションのプレスを指導することがないように、心掛けていかなければなりません。

最後にミニバスの選手は、経験不足や技術不足による故意ではない違反行為をしてしまう場面があるものと思われます。取り上げる場合は、より慎重な対応が必要となります。